

令和 4 年度 宇都宮市立平石北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。

～ 心ゆたかで かしく たくましく ～

(2) 具体目標

- ・思いやりがあり協力し合える子（心ゆたかで）
- ・進んで学び自ら考える子（かしく）
- ・心と体をきたえる子（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

— 楽しく「学び」・勇気をもって「チャレンジし」・みんなで「支え合う」活気ある学校経営の推進 —

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 目指す学校の姿（本校の使命） 「活気あふれる地域の学校」

- ①夢や意欲がもてる学校
- ②心豊かで思いやりのある児童が育つ学校
- ③互いの個性やチャレンジを認め合える学校
- ④保護者・地域から信頼され魅力のある学校

(2) 目指す教職員像

- ①自己のキャリアを高めようとする意識の高い教職員
- ②人間性・社会性豊かで信頼される教職員（学校スタッフとの連携）
- ③学校組織の一員として学びあい、協働し支え合う教職員

(3) 「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全教職員による実践推進

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

社会に開かれた教育編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から、一貫性、相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し、教育活動を展開する

- ① 各教科の教育内容を相互関係でとらえ、教育横断的な視点で内容を組織的に配列する
- ② 子供たちの姿や地域の現状に基づき、教育課程を PDCA サイクルで実施改善する
- ③ 小規模校の特性を生かし、教育内容と地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。（各種ボランティア・平北ファーム・高齢者との交流活動等）

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる地域の学校づくりの推進
- ・育てたい児童の姿を明確にした教育活動の充実
- ・勤務の効率化を意識した働き方の推進
- ・教職員一人一人のキャリアアップと高い同僚性を十分に生かした組織力の向上

【 学 習 指 導 】

- ・「基礎基本を確実に習得し、それらを活用する力の育成」～楽しい・わかる・できる授業の実現～

【 児 童 生 徒 指 導 】

- ・互いを認め合い、励まし合う指導を通した、自己有用感の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自ら進んで安全な生活を送り、心と身体の健康づくりに取り組む児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① 児童の学習意欲が向上し、学習のねらいが達成できるよう「めあての提示」と「振り返り」を行う。</p> <p>② レンジャーシールを活用し、学習への動機付けや好奇心をかき立て、賞賛や激励により達成感を実感できる場面を作る。</p> <p>③ 家庭学習の手引きを活用し、自主学習の支援を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 保護者88 児童92 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・毎時間のめあての提示、振り返りの時間の設定を徹底していく。 ・よく分かり、魅力ある授業になるように、授業研究を行い、学習意欲を高める。 ・レンジャーシールを活用し、学習への動機付けや達成感を高めていく。 ・自主学習ノートの活用について、支援したり家庭と連携したりしながら進めていく。</p>
	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① 道徳や学級活動の授業を通して、親切や思いやりについて話し合う活動を取り入れる。</p> <p>② なかよし班活動などの異学年交流活動を通して、互いを思いやる気持ちを育てる。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 保護者90 地域住民100 児童95 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳や学級活動の授業では、特に親切や思いやりについて、主体的に考え話し合う活動を取り入れる。 ・なかよし班活動などの異学年交流活動を通して、互いを思いやる気持ちを育てるようにする。</p>
	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】 「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① 「ひらきたよい子の一日」を全職員で共通理解をして指導にあたり、児童に振り返りをさせたりする。</p> <p>② 帰りの会などにおいて、生活目標の振り返りやよい行いを認め合う場を設定する。</p> <p>③ 一斉下校の日には、下校時刻5分前になったら音楽を流し、時間を守ることへの意識を高められるようにするなど、様々な手立てを講じる。</p>	B	<p>【達成状況】 職員100 保護者90 地域住民100 児童89 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・「ひらきたよい子の一日」を全職員で共通理解をして指導にあたり、月ごとに児童に振り返りをさせたりして意識付けを図る。 ・校長先生の挑戦状や帰りの会などにおいて、生活目標の振り返りやよい行いを認め合う場を設定する。 ・全ての教育活動で、5分前行動が出来るように、見通しを立てて行動できるように声掛けをしていく。</p>

<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① クラス単位で「さわやかあいさつ運動」を実施し、学校園あいさつ運動も取り組んでいく。</p> <p>② 各種たよりや学級懇談会、HP等であいさつに関する取組を家庭に知らせ、児童が時と場に応じたあいさつができるよう、「がんばりカード」を使って家庭と協力できるようにする。</p> <p>③ 児童会が中心となって、あいさつの啓発に取り組む。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者76 地域住民100 児童91 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・クラス単位の他にも代表委員会などで「さわやかあいさつ運動」を実施し、学校園あいさつ運動も取り組んでいく。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等であいさつに関する取組を家庭に知らせ、児童が時と場に応じたあいさつができるよう、「ひらきたレンジャーがんばりカード」を使って家庭と協力できるようにする。 ・児童会が中心になった、主体的な啓発活動を実践していく。</p>
<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① プールや持久走、なわとびの学習において、検定カード等の活用を図り、達成感を味わう機会を作る。</p> <p>② 「校長先生からの挑戦状」や「担任からの挑戦状」を活用し、継続的な児童の行いを認め称賛することで、目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。</p> <p>③ 上記①②の各種カードや「キャリアパスポートの振り返りカード」をこまめに持ち帰り、保護者へ児童の頑張りを伝え、称賛してもらうことで、児童の達成感を高める。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者75 児童90 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・プールや持久走、なわとびの学習において、検定カード等の活用を図り、達成感を味わう機会を作る。 ・「校長先生からの挑戦状」や「担任からの挑戦状」を活用し、継続的な児童の行いを認め称賛することで、目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。 ・上記①②の各種カードや「キャリアパスポートの振り返りカード」をこまめに持ち帰り、保護者へ児童の頑張りを伝え、称賛してもらうことで、児童の達成感を高める。 ・道徳や学級活動の時間を通して、粘り強く頑張ることについて考え、一人一人に寄り添いながら支援していく。</p>
<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 「健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒各対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 児童が健康・安全に気を付けながら生活できるよう、場面に応じて継続的に指導する。</p> <p>② 感染症対策等の指導をしている様子を、各種便りやHPなどで、保護者に発信・提供するなど、保護者への啓発活動を継続する。</p> <p>③ 立哨や、下校指導を継続的に行い、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者と危険箇所や下校の様子を情報共有し、協力して安全に登下校できるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者88 地域住民100 児童93 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童が健康・安全に気を付けながら生活できるよう、場面に応じて継続的に指導する。 ・withコロナの生活様式を意識した活動や生活などを、各種便りやHPなどで、保護者に発信・提供するなど、保護者への啓発活動を継続する。 ・下校指導と登下校の様子の聞き取りを継続的に行い、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者と危険箇所の情報を共有し、協力して安全に登下校できるようにする。</p>

<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上 【再掲 A5】</p>	<p>① 年度当初、キャリアパスポートに記入する内容を明確化し、家庭にも伝える。また、家庭や地域との連携による体験学習や出前授業を取り入れ、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動を展開する。</p> <p>② 地域協議会と連携した「生き方講演会」の実施や宮・未来キャリア教育の充実を図るために各教科や特別活動、道徳等との関連を図り、年計への位置づけを行うとともに、キャリアパスポートの有効活用を図る</p> <p>③ 各種たより、HP、学校公開等の機会を通し、教育活動を積極的に発信する。また、連絡帳等に振り返りを記入し、学校の様子が保護者に伝わるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者74 児童90 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・年度当初、キャリアパスポートに記入する内容を明確化し、家庭にも伝える。また、家庭や地域との連携による体験学習や出前授業を取り入れ、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動を展開し、振り返りの活動を充実させる。 ・年度初めにキャリアパスポートの活用について説明する機会を設け、意識付けさせる。 ・さくら連絡網を有効活用し、各種たより、HP、学校公開等の機会を通し、教育活動を積極的に発信し、学校の様子が保護者に伝わるようにする。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、外国語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションをしている。」 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答率85%以上</p>	<p>① 授業中、ALTと連携しながら、教師が進んで英語を話すことで、英語を使ったり、児童が実際に英語を話したりする活動を取り入れたりする。</p> <p>② 給食の放送の時間に、ALTの英語コーナーを設定し、挨拶や季節の行事などをテーマとした話や、英語での本の読み聞かせなどをする。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 児童92 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・ALTとの教材研究等の連携をとりながら、授業において、英語でのコミュニケーション活動をさらに取り入れていく。 ・ALTと連携し、英語に関する校内放送や掲示物等を活用し、児童の英語への関心を高めていく。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答率80%以上</p>	<p>① 地域の情報を収集し、HPや各種たよりに掲載して情報を発信するとともに、出前講座などを活用し、地域の良さを実感できるような活動を保護者に広く周知する。</p> <p>② 生活科や総合的な学習の時間の年計において自校化を図り、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開したり、授業における「宇都宮学」指導方法を工夫したりする。</p> <p>③ 掲示コーナーの設置や民話の紹介、学習のための資料の蓄積などを通して、「宇都宮学」の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者67 児童87 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・平石地区や宇都宮市についての学習の際、出前授業やゲストティーチャー等を積極的に活用し、創意工夫を生かした特色ある授業を実践していく。 ・宇都宮に関する校内放送や掲示物等を活用し、児童の宇都宮に対する関心を高める。 ・HP等を活用し、児童の宇都宮への関心を高めるための取組を保護者に周知する。</p>

<p>A10 児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 「ICT 機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答率80%以上</p>	<p>① 単元に関する図書やパソコンを使った学習を授業で取り入れるとともに、HP や各種おたよりによる発信の仕方を工夫する。</p> <p>② 引き続き、積極的に授業においてパソコンを活用し、適切に活用する能力を育成する。</p> <p>③ 図書を活用した学習を年計に自校化し、指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者90 児童93 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学習のねらいを達成するため、一人一台端末等のICT機器を効果的に活用する。 ・図書館司書と連携しながら、図書を活用した指導の充実を図る。 ・家庭と連携したり、HP等を活用したりして、ICT機器や図書を児童が活用する様子を保護者に周知する。</p>
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上 【再掲 A2】</p>	<p>① 「感謝の会」を通して、感謝やいたわりの気持ちを実感できるようにする。</p> <p>② 花壇ボランティアと作業を一緒に行うなど、高齢者と触れ合う場面を増やす。</p> <p>③ 3年総合的な学習の時間における、高砂荘交流、1・2年生活科の時間における、むかし遊び交流等を継続して実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者90 地域住民100 児童95 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・「感謝の会」を通して、感謝やいたわりの気持ちを実感できるようにする。 ・花壇ボランティアと作業を一緒に行うなど、高齢者と触れ合う場面を増やす。 ・3年総合的な学習の時間における、高砂荘交流、1・2年生活科の時間における、むかし遊び交流等を継続して実施する。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答率80%以上</p>	<p>① 生活科の植物の栽培や総合的な学習の時間における環境問題に関する学習、SDGsに関する出前授業などを実施する。</p> <p>② 「持続可能な社会」についての関心が高まるよう、委員会活動において、リサイクルの推進や緑化運動を実施したり、それらの活動を全児童に紹介したりする。</p>	<p>【達成状況】 教職員94 児童90 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業において「持続可能な社会」について意識して指導したり、出前授業やゲストティーチャー等を活用した、特色ある授業を行ったりする。 ・委員会活動において、リサイクルの推進や緑化運動を実施するとともに、全校児童に紹介することで、「持続可能な社会」への関心が高められるようにする。</p>
<p>B1 児童は正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① 道徳や学級活動で言葉づかいについて考え、話し合う場を設け、児童のよい行いを称賛したりする。</p> <p>② 各種たよりや学級懇談会、HP等で学校での取組を伝えたり、第2回いじめゼロ月間において家庭でも言葉づかいについて考える機会をもったりする。</p> <p>③ 生活目標や「校長先生の挑戦状」で言葉づかいについて目標を示し、児童の意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者77 地域住民100 児童86 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳や学級活動で言葉づかいについて考え、話し合う場を設けたり、日常の児童のよい行いを称賛したりする。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等で学校での取組を伝えたり、いじめゼロ月間において家庭でも言葉づかいについて考える機会をもったりする。 ・生活目標や「校長先生の挑戦状」で言葉づかいについて目標を示し、児童の意識を高める。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員対象 肯定的回答率90%以上</p>	<p>① 今後も特別な支援を必要とする児童の教育的ニーズに応じた支援を行っていく。</p> <p>② 必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする児童の教育的ニーズに応じた支援を行っていく。</p> <p>・必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。</p>
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① いじめゼロ強調月間に合わせて道徳の授業を継続して実施する。</p> <p>② いじめゼロに関するアンケート・標語・名札の着用等を通じて意識の向上を図る。</p> <p>③ 児童会や平北レンジャーと連携し、いじめゼロ運動を計画的に実施する。</p> <p>④ 各種たよりや学級懇談会、HP等で児童の取組を発信していく。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 保護者80 地域住民100 児童96 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・いじめゼロ強調月間に合わせて、道徳の授業を意図的に実施する。</p> <p>・いじめゼロに関するアンケート・標語・名札の着用等を通じて意識の向上を図る。</p> <p>・児童会や平北レンジャーと連携し、いじめゼロ運動を計画的に実施する。</p> <p>・各種たよりや学級懇談会、HP等で児童の取組を発信していく。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会（不登校対策含）、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を図り、対応策を検討していく。</p> <p>② SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。</p> <p>③ 係や当番活動の取組、帰りの会における振り返りなど、児童の活躍の場や認め合う場を設ける。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 保護者94 児童95 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会（不登校対策含）、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を迅速に図り、対応策を検討していく。</p> <p>・SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。</p> <p>・係や当番活動の取組、帰りの会における振り返りなど、児童の活躍の場や認め合う場をさらに設けていく。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員対象 肯定的回答率90%以上 【再掲 A13】</p>	<p>① 関連機関と連携を図り、該当児童の存在や状況を把握していく。</p> <p>② 校内支援委員会等において、特別な支援を必要とする児童についての共通理解を図り、対応策を検討していく。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・関連機関と連携を図り、該当児童の存在や状況を把握していく。</p> <p>・校内支援委員会等において、特別な支援を必要とする児童についての共通理解を図り、対応策を検討していく。</p>

<p>A 17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」 ⇒各対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 児童会や平北レンジャー、委員会活動など、児童が中心になって活躍できる場を設定していく。</p> <p>② 各種たよりや学級懇談会、HP等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を積極的に発信していく。</p> <p>③ 月1回以上の各クラスでの共遊の時間を設けたり、なかよし班活動などの異学年交流を行ったりしていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者90 地域住民100 児童89 ・児童のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童会や平北レンジャー、委員会活動など、児童が中心になって活躍できる場を設定していく。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を積極的に発信していく。 ・月1回以上の各クラスでの共遊の時間を設けたり、なかよし班活動などの異学年交流を行ったりしていく。(ロング昼休みの使い方を工夫していく)</p>
<p>A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材研究を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① HPで授業の様子を紹介したり、授業参観や学級懇談会等で児童の学びについて伝えたりしていく。</p> <p>② 算数における習熟度別学習やTTの実施やかがやきルームの活用など、個に応じた指導の充実を図ることで、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>③ 学力調査等の結果を基に、学校課題と関連する課題を設定し、学校全体で課題設定に取り組む。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者83 児童98 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・教材研究を十分に行い、個に応じた指導方法を工夫していく。 ・HP等を活用し、授業の様子を紹介したり、授業参観や学級懇談会等で児童の学びについて伝えたりしていく。 ・算数における習熟度別学習やTTの実施、かがやきルームの活用など、個に応じた指導の充実を図ることで、基礎・基本の定着を図る。 ・学力調査等の結果を基に、学校課題と関連する課題を設定し、学校全体で課題設定に取り組む。</p>
<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校に関わる職員全員チームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① PDCAサイクルによる学校行事精選や行事内容のスリム化、校務分掌の見直しを図る。</p> <p>② 教職員の多様な専門性を活かし、役割分担を明確にすることで、校務分掌の主務者をリーダーとして効率的な業務遂行を目指す。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・PDCAサイクルによる学校行事精選や行事内容のスリム化、校務分掌の見直しを図る。 ・教職員の多様な専門性を活かし、役割分担を明確にすることで、校務分掌の主務者をリーダーとして効率的な業務遂行を目指す。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学校支援スタッフとの連携を充実させていく。また、学校行事の反省、教育課程の振り返りなどを通し、学校運営の見直しや行事の実施方法の改善を行う。</p> <p>② 業務改善係が中心になって勤務の効率化を図るための研修を位置づける。</p> <p>③ 終齢を鳴らし、勤務時間を意識するとともに、業務の改善を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校支援スタッフとの連携を充実させていく。また、学校行事の反省、教育課程の振り返りなどを通し、学校運営の見直しや行事の実施方法の改善を行う。 ・業務改善係が中心になって勤務の効率化を図るための研修を位置付ける。 ・終令を鳴らし、勤務時間を意識するとともに、業務の改善を行う。</p>

<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 「学校は、小学校と中学校が連携した取組を行っている」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>○①コロナ禍における学校園での取組について検証し、児童・生徒間の交流、各部・分科会での教職員の交流を図る。</p> <p>○②小中一貫教育・地域学校園における取組について、各種たよりやHP、校内掲示等で積極的に発信する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員100 保護者79 地域住民71 児童94 ・保護者・地域住民が目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・コロナ禍における学校園での取組について検証し、児童・生徒間の交流、各部・分科会での教職員の交流を図る。 ・小中一貫教育・地域学校園における取組について、地域協議会、各種たよりやHP、校内掲示等で積極的に発信する。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① コロナ禍でも可能な活動を検証しながら、地域協議会、まちづくり協議会との連携を強化し、ボランティア活用の活性化を図る。</p> <p>② 学校支援ボランティアや地域の大学・企業・施設の活用を年計に位置づける。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員100 保護者88 地域住民100 児童90 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域連携教員や地協コーディネーターを中心に、コロナ禍でも可能な活動を検証しながら、地域協議会、まちづくり協議会との連携を強化し、ボランティア活動の活性化を図る。 ・学校支援ボランティアや地域の大学・企業・施設の活用をさらに充実させていく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上 【再掲 A22】</p>	<p>① 花いっぱい運動や米作りなど地域やPTAとの連携をさらに推進し、地域に根差した特色ある学校づくりを目指す。</p> <p>② 地域コーディネーターを窓口とした学校支援ボランティアの活用を推進する。</p> <p>③ 各種便り、HP等により教育活動を積極的に発信する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員100 保護者88 地域住民100 児童90 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・花いっぱい運動や米作り、農園ボランティアなど地域やPTAとの連携をさらに推進し、地域に根差した特色ある学校づくりを目指す。 ・地域コーディネーターを窓口とした学校支援ボランティアの活用や各種地域協議会主催の事業の活性化を推進する。 ・各種便り、HP等により教育活動を積極的に発信する。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 「学校は、利用者の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒教職員、保護者、地域対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 委員会活動や朝の除草等、学校の取組を各種たよりやHP等により、家庭や地域へ積極的に発信する。</p> <p>② 毎月の安全点検の実施により、危険箇所の周知を図り、修繕箇所への迅速な対応に取り組む。</p> <p>③ 熱中症警戒アラート発令時、雷雨などの気象災害への迅速な対応と、メール配信時の開封確認の徹底、必要に応じた保護者への引き渡しなど保護者への確実な情報提供を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員100 保護者84 地域住民100 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・数値目標85% ・委員会の活動や各種たより、掲示物等を活用して、児童に安全な生活の仕方について啓発し、その様子を各種便りやHP等により、家庭や地域へ積極的に発信する。 ・毎月の安全点検の実施や日頃の環境整備については、実施方法を改善し、危険箇所の周知を図り、修繕箇所への迅速な対応に取り組む。 ・熱中症警戒アラート発令時、雷雨などの気象災害への迅速な対応と、さくら連絡網を活用して、保護者への確実な情報提供を行う。</p>

本校の特色・課題等	<p>A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 「ICT 機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童・教職員・保護者対象 肯定的回答 80%以上 【再掲 A10】</p>	<p>① 各学年の学習内容に関連した図書や ICT 機器の整備・充実を図る。</p> <p>② 各種たよりや HP 等で、ICT 機器や図書を活用した授業の様子を発信したり、授業参観等において、ICT 機器や図書を活用した授業を実践したりする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100 保護者 90 児童 93 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・各学年の学習内容に関連した図書や ICT 機器の整備・充実を図る。 ・各種たよりや HP 等で、ICT 機器や図書を活用した授業の様子を発信したり、授業参観等において、ICT 機器や図書を活用した授業を実践したりする。</p>
	<p>B2 学校マネジメントシステムを生かし、コロナ禍に対応した教育活動の継続的な改善に努めている。</p> <p>【数値指標】 「保護者や地域住民の建設的な意見を学級経営や授業改善に生かそうとしている」 ⇒教職員、保護者対象 肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 教職員による評価や学校公開のアンケート等を活用し、教育活動の改善に努める。</p> <p>② 校内評価委員会やプロジェクトチーム等を活用し、その都度改善点を洗い出し、教育活動の改善に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100 保護者 87 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員による評価や学校公開のアンケート等を活用し、教育活動の改善に努める。 ・校内評価委員会やプロジェクトチーム等を活用し、その都度改善点を洗い出し、教育活動の改善に努める。 ・欠席時のリモート授業等の実施について学校の方針を便り等で伝える。</p>
	<p>B3 いろいろな分野の本をたくさん読み、読書への関心が高まるよう努めている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、進んで読書に取り組んでいる」 ⇒教職員、保護者、児童対象 肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 図書室のイベントや家読などの取組を継続しつつ、今年度も HP や各種たよりでさらに発信していく。</p> <p>② 家庭での読書量が増えるよう、週末の宿題などでの家読を継続し、家庭での読書活動を推進する。</p> <p>③ 学校図書館係と図書館司書が連携し、読み聞かせのやり方を工夫したり、授業内容に関連した図書の紹介を定期的に行ったりする。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100 保護者 60 児童 84 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・図書室のイベントや家読などの取組を継続しつつ、今年度も HP や各種たよりでさらに発信していく。 ・家庭での読書量が増えるよう、週末の宿題などでの家読を継続し、家庭での読書活動を推進する。 ・学校図書館係と図書館司書が連携し、読み聞かせのやり方を工夫したり、授業内容に関連した図書の紹介を定期的に行ったりする。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～12）】

- ・ A1～3の学習態度や生活態度に関する項目については、ほぼ全ての対象で数値目標を上回った。引き続き基礎学力向上や基本的な生活習慣の習得を目指した取組を工夫・改善していく。
- ・ A4「あいさつや正しい言葉づかい」については、昨年度より肯定的回答が増えたが、市の平均と比べると、児童・保護者の肯定的割合が低い。実態として進んであいさつすることができておらず、保護者や地域の方からも同様の声が上がっている。さわやかあいさつ運動を、保護者や地域と連携して実施していきたい。
- ・ A5「粘り強さ」や A7「夢や目標に向かって努力すること」に関する項目は、教職員・保護者・児童共に、昨年度よりも肯定的割合が上がっている。全教育活動におけるレンジャーシールを活用や体験活動等の効果的な設定が成果として表れた。今後もさらに充実を図っていきたい。
- ・ A9「宇都宮の良さ」については、校内に「宇都宮学」の掲示コーナーを設置したり、お昼の校内放送で宇都宮の民話の読み聞かせを行ったりしてきた。保護者のみ目標値を下回ったが、昨年度と比較すると 22.1 ポイント上昇したので、今

後も取組を発信して学びを広め深めていきたい。

- ・ A10「ICT 機器や図書を活用した学習活動」については、学習の目的に応じて一人一台端末や図書資料を有効に活用するよう取り組んできたことで、全ての対象で数値目標を上回った。今後も日常の授業における活用をさらに推進するとともに、図書の活用を含めた取組を広く発信していきたい。
- ・ A12「持続可能な社会に関心を持つ」については、総合的な学習の時間や「生き方講演会」などを通して積極的に児童に働きかけを行ったことで、すべての対象で目標値を上回った。今後も児童の主体的な活動を多く取り入れて、意識の向上を図っていきたい。

【目指す学校の姿（評価項目 A13～25）】

- ・ A18「分かりやすい授業」については、保護者の回答が目標値を下回り、昨年度よりも数値が下がっている。教師の本分は授業そのものである原点に立ち返り、個に応じた分かりやすい授業の展開を目指していきたい。
- ・ A18「利用する人にとって安全に配慮した環境づくり」についても、保護者の回答が目標値を下回り、昨年度よりも数値が下がっている。施設面では安全点検のさらなる徹底、児童に向けては安全教育を充実させる教育活動を行ってきたい。

【本校の特色・課題等（評価項目：B1～3）】

- ・ B1「時と場に応じた言葉づかい」は、保護者の回答が数値目標に届いていないが、昨年度よりも5ポイント上昇した。今後も生活目標に位置付けたり、道徳や学級活動で意図的に取り上げたりして、時と場に応じた言葉遣いが身に付くよう根気強く指導していく。
- ・ B2「コロナ禍に対応した教育活動の改善」については、保護者の回答が数値目標に届いていないが、高水準で推移しており、一定の評価を得ることができたと言える。今後も状況に応じた対応を行っていくようにしたい。
- ・ B3「進んで読書に取り組んでいる」については、依然として保護者数値が低いが、昨年度よりも2.6ポイント上昇した。図書室のイベントの企画や読書カードの工夫、教職員による読み聞かせなどを通して、本に興味を持つ児童が増えているので、今後もさらに学校図書館司書と連携・協力して児童の読書活動の支援を工夫していきたい。

7 学校関係者評価

【目指す児童の姿（評価項目：A1～12）】 【目指す学校の姿（評価項目 A13～25）】

- ・ 評価書で保護者の数値が低いのは、保護者の関心が薄く、学校の活動が分からず、判断しかねているからかもしれない。関心の低い保護者にどのようにして興味をもってもらうかが課題。
 - （方策）・学校の様子を家の人に話すなどの宿題を出して、家族との会話の機会を多くつくる。
 - ・ マネジメントの回答を親子で一緒に行う。
（低学年には難しそうなので、学校で回答した日の帰宅後、子どもに聞きながら保護者に回答してもらうのもよいか。）
 - ・ 質問内容が広すぎて、何を聞かれているのか、何を指しているのかわからないので、アンケートを出すときに学校の取組を周知してから回答してもらう。
 - ・ 前年度の回答を見て、周知されていない項目について、学校の取組を知らせてから回答してもらう。
- ・ 地域でも学校の活動の中身が見えないところがある。
- ・ 学校は回答結果のパーセンテージにこだわるのか、回収率にこだわるのか？
 - 数値はあくまでも問題点を洗い出す指標。
- ・ 「生き方講演会」は、児童の反応がとてもよかったが、保護者の参加が少なかったのが残念だった。
 - 保護者の参加方法を今後検討。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿】

- あいさつに関しては、学校だけでなく保護者や地域と巻き込んだあいさつ運動を実施していく。
- ・ 「夢や目標に向かって努力すること」や「宇都宮のよさ」に関しては、今年度の成果を踏まえ、取組を継続・発展させるとともに、学校に置ける取組についての情報の発信をこまめに行う。
- ・ その日あった出来事や学習活動などを、児童が家で家族に話すことができる機会を意図的に設けていくことで、学校での状況を保護者と共有できるようにする。

【目指す学校の姿（評価項目 A13～25）】

- ・個に応じた「分かりやすい授業」を展開するために、「宇都宮モデル」（はっきり・じっくり・すっきり）の授業となるように、校内研修を充実させる。
- ・「生き方講演会」を初め、保護者参加の出前講座等は、保護者の参加が増えるように、日程を調整したり、事前に講話内容や講師の情報提供をしっかりと行ったりして、参加しやすいようにする。
- ・年に3回の授業参観や学級懇談会の持ち方を工夫するなどして、保護者との連携を図っていく。
- ・マネジメントアンケートの質問内容について、理解してもらうために、実施前に、質問内容についての説明や判断すべき観点などを示していくなどの工夫を加えるようにする。

【本校の特色・課題等】

- ・「時と場に応じた言葉づかい」については、教育活動全体を通して、児童自らが考え実行できるように支援したり、家庭との連携を意識したチェックカードを作成したりするなどして、意識の高揚を図っていく。
- ・「コロナ禍に対応した教育活動の改善」に関しては、5月に5類に移行することを踏まえ、可能な限りコロナ前の実施状況に戻していく。
- ・「進んで読書に取り組んでいる」については、本年度の取組をさらに充実させ、児童の読書活動を推進していく。